

## FIT 野外研修

【タイトル】「創建 100 年を迎えた明治神宮」

【実施日】2020 年 11 月 5 日（木）9：30～12：40

【開催場所】明治神宮

【参加者】14 名（FIT）

【講師】石井 誠治（FIT）

【スタッフ】小勝 眞佐枝

【報告者】日比 典子

【本文】雲一つない秋空の下、代々木駅西口に 9:30 の集合時間に全員集合。

自己紹介のあと世界の木が植わった「そら植物園」を通り、渋谷川の痕跡をたどり北参道より明治神宮に入る。

まずは北参道の台湾ヒノキの鳥居のまだ香るヒノキの匂いを確認。

明治神宮は明治天皇と昭憲皇太后の崩御に伴い、大正 9 年に創建された。

境内はそのほとんどが全国青年団の勤労奉仕により造苑整備されたもので、現在の深い杜の木々は全国からの献木が植樹されたものである。

杜の奥にスズカケノキがあるがこれは明治時代以降にヨーロッパから導入されたものであり、アベマキは関東以北には少ないとの事であり

これも本来の自然林でなく全国からの献木の名残と考えられる。

北池の広場のムクノキにちょうど黒い実がなっていて試食。干し柿に似た美味しい実で鳥も大好物だそう。ムクロジも黄色の実をたくさん付けていて秋を感じさせる。

参道沿いのシラカシに 2～3cm の小さなノキシノブがびっしりとついている。

よく見るとフラス（木屑）があり、カシノナガキクイムシの穿孔した跡が点々とある。

根元にはオオスズメバチの女王蜂が越冬の準備中であった。

木の葉はまだ緑であったが近々茶色に変わるだろう。

ミズナラ・コナラの落葉樹では全枯れになり、シイ・カシの常緑樹では全枯れを免れるらしい。

よく見ると林内にはナラ枯れと思われる茶色に変色した葉の木が目立つ。

カシノナガキクイムシは大径木で発生しやすく温暖化とともにますます増加すると思われる。

境内にて枝が目立つクスノキがあった。クスノキは突然死することがありその原因は不明とのこと。

江戸の昔から代々大きなモミの木があり代々木と名付けられたとの由来を勉強した。

最後に南参道の 100 年前の鳥居の写真と今の鬱蒼とした光景を見比べ、

本多静六らの林学の専門家達の「永遠の杜」造りへの情熱と先見の明に思いを馳せ解散となった。

今回は創建 100 年事業の一環として、苑内に創建当時の写真の展示や説明があり、100 年前と今とを比べながら観察ができたのは有意義であった。

内容の濃い 3 時間の研修の一部しか伝えることができないのが残念であるが、この機会に皆さんが明治神宮を訪れることをお勧めする。

小さな気づきや違和感が大きな発見や感動を呼ぶことを石井講師から学んだ楽しい一日であった。

以上



そら植物園の中を行く



100年を経た森



カシノナガキクイムシのフラス



タイワンヒノキは香りが強い



境内の立派なクスノキ



創建当時のパネル写真で解説